

昆明空港管理委員会一行来日 空港視察報告書

・2006/06/21(水)～6/27(火) 雲南省昆明市副市長であり昆明新空港経済区管理委員会主任である王道興氏はじめ空港管理委員会関係者7名が来日し、関西国際空港・中部国際空港・羽田空港・成田空港を訪問、視察した。昆明市は、2010年度に新国際空港設立を目指し、日本の先進的な空港施設の技術やサービスについて学びたいと考えており、今回の訪問・視察をする運びとなった。

各空港視察の報告

・6/21(水)07:15、クアラルンプールから関西空港に到着 関西国際空港視察

深夜の飛行で皆とても疲れていたが、関西空港のほうも朝早くより準備をしてくれており、とてもありがたかった。同行は曹光さん。荷物をマイクロバスに預け、開始時間の9時まで貴賓室で休憩した。9時からお互いの名刺交換、概要説明を受け、ターミナルビルや空港島内の視察をした。関西国際空港の村山社長はじめ柚木執行役員、国際業務室の西村さん等の方々が対応してくださり、また、昼食会を催していただき、その中でも空港に関する様々な点についての質疑応答をすることができ、とてもよかった。

また、今回関西空港で学んだ大きな点としては、「買い物はゆっくりと見てまわりたいもの。出国手続きは敏速に行いたいもの。この2つの矛盾を解消することが空港運営の成功の鍵である」ということ。この考えに基づき、関西空港では他の空港とは違って、独自にブランド品店舗やその他多くの商業店舗を直接管理運営しているという。商業店舗の売上いかんによって提供できるサービスにも影響することから、とても重要視している。このことは昆明空港の一行にとっては目から鱗であった。

・6/23(金)中部国際空港視察

前日から七田が同行。9時過ぎに名鉄線を使って空港に到着した一行は、中部国際空港総務部国際業務下條さんの案内で会議室に。30分ほど荒尾部長から空港の概要説明をしていただいた。王主任は空港をとりまく経済区全体の物流・商業の状況にかなり興味があり、質疑応答時間はその部分に多くを費やした。また、民営化についても運営をどのように行っているのか、また、旧空港との兼ね合い(旧空港を完全になくすのではなく、一部が残っている事情)についても話題が及んだ。その後、空港島の中に入り、離陸着陸ゾーンや物流ゾーンを車でまわる。中部国際空港の開発中の地区を見学し、皆とくに物流会社の集まる部分や、機内食を扱う工場では感嘆の声もあがっていた。



荒尾部長からの概要説明

航空機と搭乗口を繋ぐ廊下部分には広告があり、荒尾部長は「空港内ではなく、搭乗口の外側にあしらった広告は欧米ではよく見かけるのですが日本でははじめての取り組みで

す」という。王主任はじめ一行は「ぜひ中国ではじめて、昆明空港にこのシステムを取り入れたい」とはなしていた。その後、残念ながらターミナル内は主任の足の具合と時間の関係もあり見学することができなかったが、外周の見学だけでもかなり学ぶところが多い視察になったようだ。最後にお礼の品物を渡し、見学した鉄道との連絡口でお別れし、空港を後にした。



視察終了後、全員で記念撮影

・6/26（月）羽田空港視察

朝、京王プラザホテルを出発し、この日は初鹿野理事長と七田が同行。待ち合わせの第一ターミナルは昨年できたばかりで真新しい。小さなお土産屋や流行の「空弁」販売店が数多く並んでいるのが印象的だ。この日対応してくださったのは日本空港ビルディングの鈴木主幹、広報室の尾崎室長はじめ多くの役員の方々。10時から鈴木主幹による概要説明を受け、その後に質疑応答がなされ、ターミナルと駐車場を見学した。空港の設計デザインは海をイメージしたとのことで、全体にとっても美しく、特に日本画家の千住博さんの天井画には設計担当の陳副委員長も「心がおちつく空港ですね、コンセプトがすばらしい」と感想をもらした。今回、昆明空港のイメージ図を依頼した黒川紀章さんの話をしたり、また、ターミナルごとの色分けによる乗客への配慮の話、空港内の土地管理について国有の土地とその他の企業の土地の区別についてなど、昆明空港が今後関わるであろうもんだいについて話しながらのターミナル見学となった。



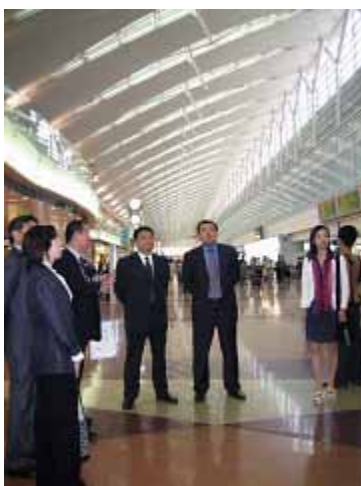
質問にも熱が入る

見学後の質疑応答では、eチケット（ケータイやPC、中継駅でのチェックイン）についての質問が簡所長から出された。このようなシステムがあることをはじめて知って、その便利さにかかなり驚いていた模様。

視察後、空港内のレストランで食事をしながら、「本当にきれいだ、本当にきれいだ」とレストランの内装・インテリアや空港内の雰囲気について皆言っていた。

中国語の資料等を用意してくださっており、とてもありがたかった。

翼部分をイメージしたターミナル



・6/27（火）成田空港視察 シンガポールへ...

1週間にわたる日本でのスケジュール（一行の出張スケジュールはマレーシア、シンガポールもふくめると3週間ほど）で疲れが出てきていた一行だったが、最後の視察空港、成

田空港で時間の押し迫る慌しい中、資料や映像など、たくさんの配慮をしてくださった成田空港の方々の期待を感じ、熱心に概要説明に聞き入った。開設してくださった小堀常務は何度も中国の北京空港や上海空港に足を運んでおり、また、各空港長とも「老朋友」だという。とても気さくな方だった。昆明空港とも、世界の空港会議を通して顔見知りであるという、「時間があまり取れませんでした、帰国後もなにか問題や聞



質疑応答の様子

きたいことがあれば、どんなことでもお答えします、協力しますよ」と力強い言葉を下さった。成田空港の利用客数はちょうど昆明空港がみこんでいる規模に近く、また、郊外にある空港という立地条件も似ており、一行は空港を取り巻く交通や運輸、ホテルや商業施設によっての都市開発についてとても興味をもった。eチケットによってチェックインカウンターが将来的にはなくなり、スーツケースなど荷物も今後家から直接目的地の空港に届くようになる、という新しい空港像についても知ることができた。